

ヨーロッパの基層文化と近代

研究代表者 松 本 彰

1. プロジェクトメンバー

松 本 彰 (代表者)
高 橋 秀 樹
細 田 あや子
高 木 裕
桑 原 聡
逸 見 龍 生
井 山 弘 幸
三 浦 淳
原 聖 (研究協力者 女子美術大学教授)
田 中 景 (研究協力者 東京経済大学准教授)

2. プロジェクト概略

五年間、さまざまな学内、学外のプロジェクトと連携しつつ多彩な研究活動を行った。とくに注目すべきものとして、以下のものがある。

① 2007年6月16/17日 日本西洋史学会 (新潟朱鷺メッセ)

主催は日本西洋史学会だが、新潟大学が開催校となり、プロジェクトのメンバーが中心となって学会運営を担当した。

当日、シンポジウム「国民国家とアイデンティティ複合－中欧における帝国、国民、民族－」を行った。

司会者：小沢 弘明 (千葉大学)、立石 博高 (東京外国語大学)

報告者：松本 彰 (新潟大学)

「中欧におけるドイツ人と三回の〈ドイツ統一〉

－記念碑に刻まれたドイツ、プロイセン、オーストリアー」

割田 聖史 (宮城学院女子大学)

「19世紀前半プロイセン王国における国民とパトリオティズム」

山本 明代 (名古屋市立大学)

「第一次世界大戦と移民コミュニティの再編

－アメリカ合衆国のハンガリー王国出身移民－」

野村 真理 (金沢大学)

「中欧ユダヤ人のアイデンティティ複合とシオニズム」

コメンテーター：佐々木博光 (大阪府立大学), 岸本 美緒 (東京大学)

② 2008年9月7日 公開シンポジウム (主催 19世紀学学会)

「いまさら、ヨーロッパ-ARS (技術, 芸術, 学問) の分化と「近代」-」
報告

川田順造 (神奈川大学 文化人類学) 「技術, 学問の指向性に見る“近代”」

松本 彰 (新潟大学 音楽史)

「ハーモニーの科学と美学-クラヴィコードによるヨーロッパ音楽再考-」

陣内秀信 (法政大学 建築学) 「都市の劇場性-イタリアを中心に」

坂内徳明 (一橋大学 ロシア民俗学)

「ロシア民衆木版画に見るヨーロッパ近代」

村上陽一郎 (国際基督教大学 科学史)

「19世紀の〈デモクラシー〉概念について」

『ヨーロッパの基層文化』岩波書店 (1995年) をまとめられ, 「基層文化」概念について, 多くの提言をされてきた川田先生を招いての研究会はたいへんに意義深いものであった。

報告は, 『19世紀学研究』第三号 (2009年) に掲載された。

学部での超域文化論の授業として, 2007年度と2009年度, 超域科目として「ヨーロッパの基層文化」をテーマに授業を行った。

3. プロジェクトの成果

三浦淳 単著『鯨とイルカの文化政治学』(洋泉社, 2009年), 全301頁

高橋秀樹, 共著『ソシアビリテの歴史的諸相—古典古代と前近代ヨーロッパ—』(南窓社, 2008年), 担当部分: 8-25頁。

細田あや子, 単著『「よきサマリア人」の譬え—図像解釈からみるイエスの言葉』三元社, 全543頁

松本 彰, 共著『ピアノはいつピアノになったか?』(大阪大学出版会, 2007年), 担当1-28頁

石田美紀, 「50年代のジャン・ルノワール—芝居とミュージカル」京都国立近代美術館 ルノワール+ルノワール展関連シンポジウム招待講演, 2008年7月6日(日)

桑 原 聡, "Mystisches Denken als eine interkulturelle Wissensform", Saoshi Kuwahara, Humboldt-Kolleg in Rikkyo, Alexander von Humboldt-Stiftung und Rikkyo University, 立教大学(2008) "Mystisches Denken als eine interkulturelle Wissensform", Saoshi Kuwahara, Humboldt-Kolleg in Rikkyo, Alexander von Humboldt-Stiftung und Rikkyo University, 立教大学, 2008年

逸見龍生, 「『百科全書』研究の新天地平」『日本18世紀学会年報』No.23, pp.8-10, 2008年

井山弘幸, 単著『笑いの方程式』化学同人, 2007年

佐渡越後文化交流史プロジェクト

研究代表者 原 直 史

1. プロジェクトメンバー

原 直 史 (新代表者)

芳 井 研 一

矢 田 俊 文